

1. 現代の和服の縫い方は、大部分が江戸後期以後の方法を踏襲していて、近代的な美しさから遠ざかっている所がある。明治以後繊細に工夫された面があるが、根本的な欠陥と見られるのは、着て表が美しく見えるように仕立てるべきを、裏をきれいに整えるために表を損じていることである。特に透く薄物の仕立てにおいて縫い込みの始末が適当でない。以上の欠点を除いた仕立て方を工夫することが目的である。なお新しい材料を仕立て方の上を利用することを考慮する。

2. 広い視野に立って改良を考えるため、歴史上の調査をし、それを資料として今後の改良の方向を把握した。それには現代和服の初期と見られる近世初期の武家の高級衣類の縫い方を遺物の上に調査し、その特色を明らかにし、古代・中世の縫い方をも参照し、ついで江戸時代から明治・大正・昭和の変遷を文献（特に裁縫書）と実物とを資料として考察し、江戸時代の絵画に見る縫い方の欠点を指摘し、今後の改良が経済上からも、また世界の人を見る中においても見苦しくないものにすべき点を明らかにした。

3. 薄物の仕立ての改良を具体的に示すため、長着・羽織の実物を提示する。